

## 2 夫婦間での行為における暴力としての認識

11 項目の行為をあげて、それが夫婦間で行われた場合に「暴力」にあたると思うかの意識を聞いた(図2-1)。この調査の中では、「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含んでいる。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が多いのは、“身体を傷つける可能性のある物でなぐる”(93.0%)と“刃物などを突きつけて、おどす”(91.5%)で、9割以上の人々が『暴力にあたる』と認識している。

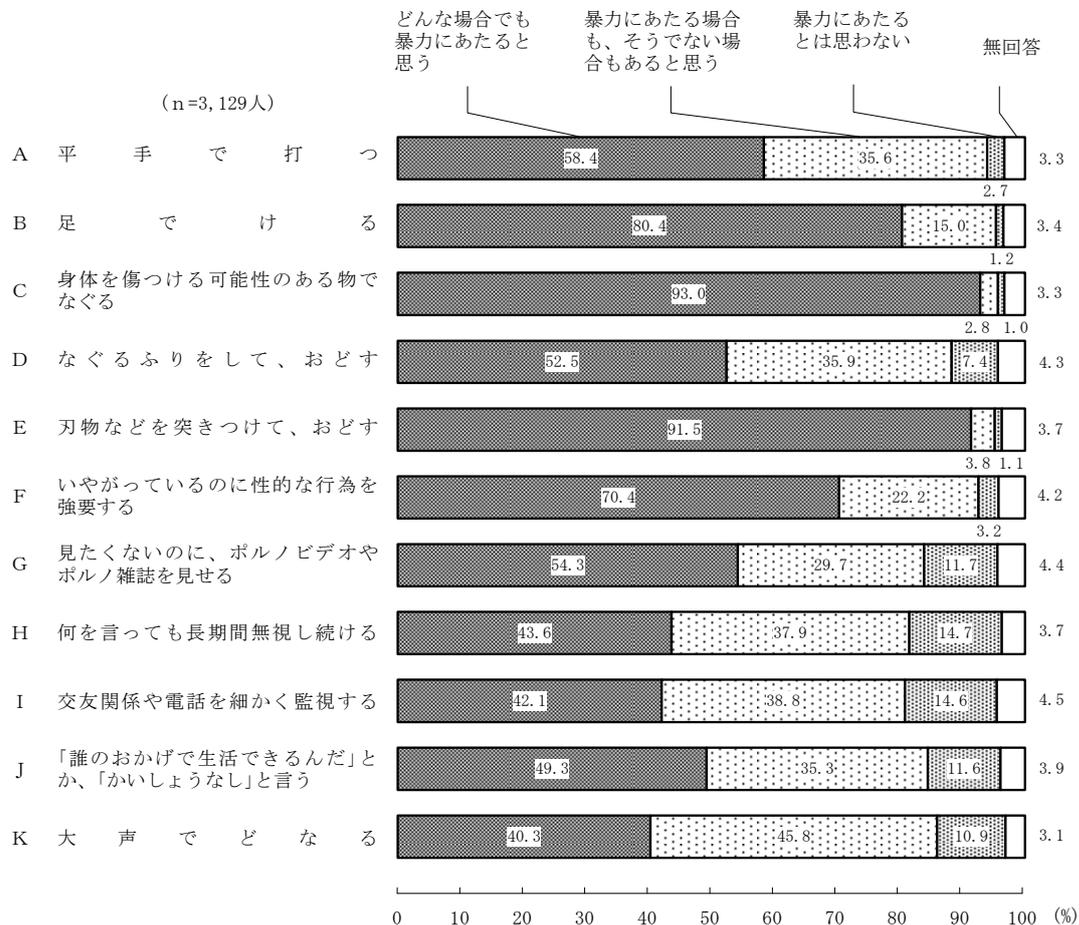
また、“足でける”(80.4%)は8割、“いやがっているのに性的な行為を強要する”(70.4%)は7割の人が、それぞれ「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考えている。

一方、“大声でどなる”については、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(45.8%)という人が、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(40.3%)という人を5ポイントほど上回っている。

これに対して、「暴力にあたるとは思わない」と考える人が比較的多かったのは、“何を言っても長期間無視し続ける”(14.7%)と“交友関係や電話を細かく監視する”(14.6%)で、『暴力にあたらない』という認識を持っている人が15%ほどとなっている。

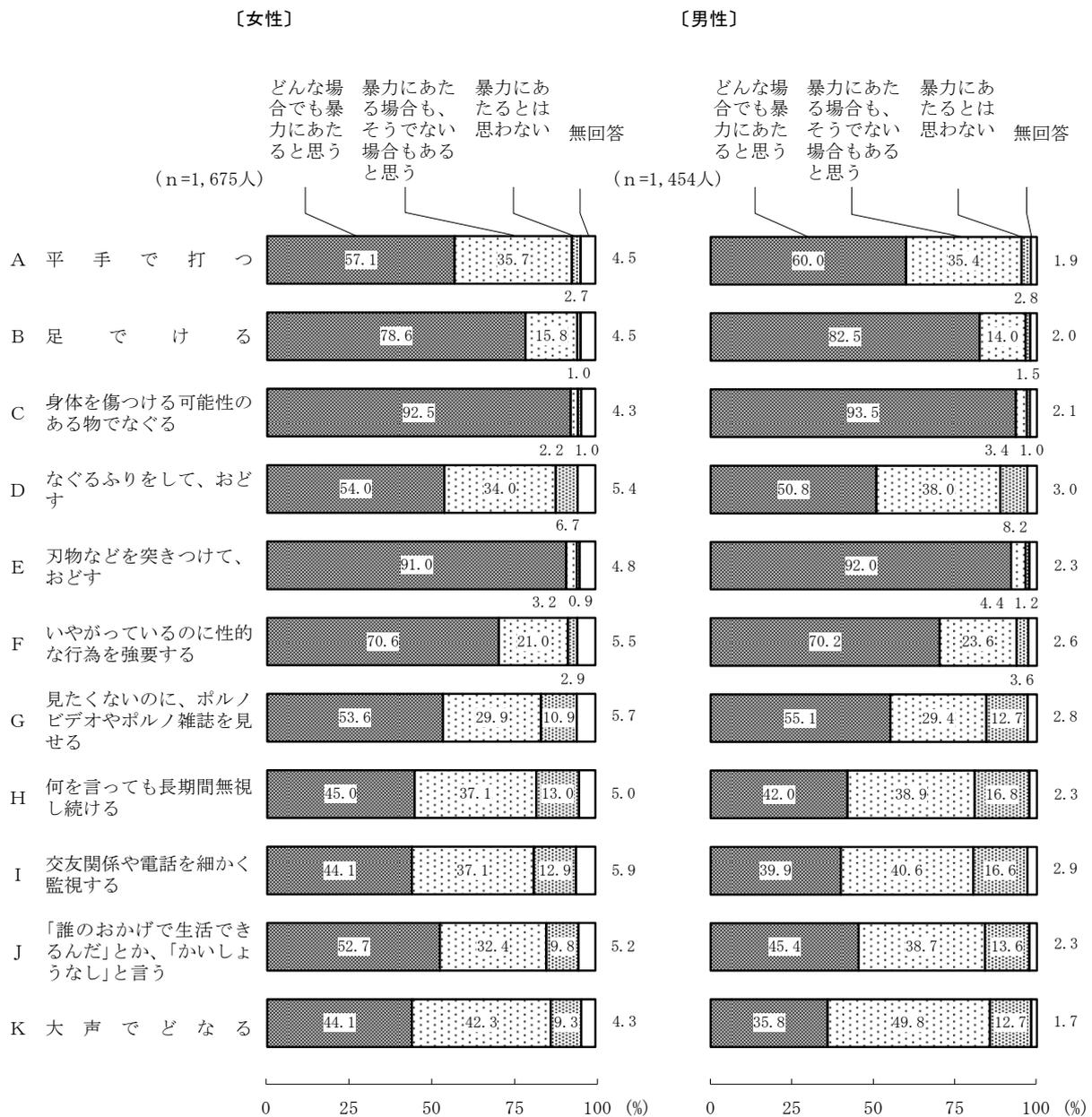
問3 あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。  
AからKのそれぞれについて、1から3のうちあなたの考えに近い番号に○をつけてください。  
(○はそれぞれ1つずつ)

図2-1 夫婦間での行為における暴力としての認識



男女別にみると(図2-2)、大きな差はみられないが、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答え、暴力としての認識を持っている人は、「足でける」(女性78.6%、男性82.5%)と「平手で打つ」(同57.1%、60.0%)という行為について、女性より男性に多く、「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしようなし」と言う(同52.7%、45.4%)と「大声でどなる」(同44.1%、35.8%)という行為については、男性より女性に多くなっている。

図2-2 夫婦間での行為における暴力としての認識(男女別)



平成 17 年度調査と共通する 11 項目について認識の変化をみると (図 2-3)、すべての項目において暴力としての認識がほぼ同じか、あるいは少し増加している。

図 2-3 夫婦間での行為における暴力としての認識 - 時系列比較

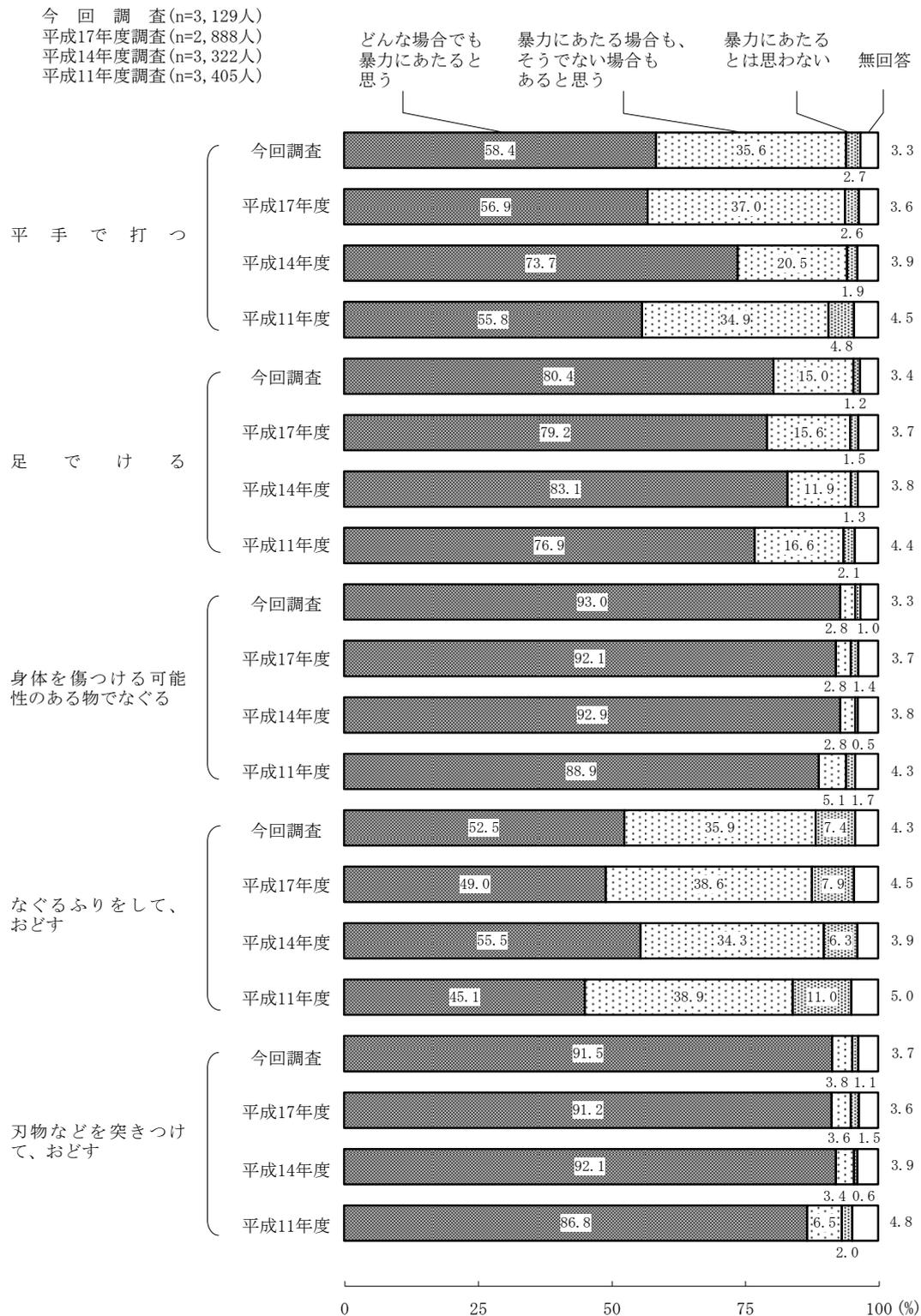
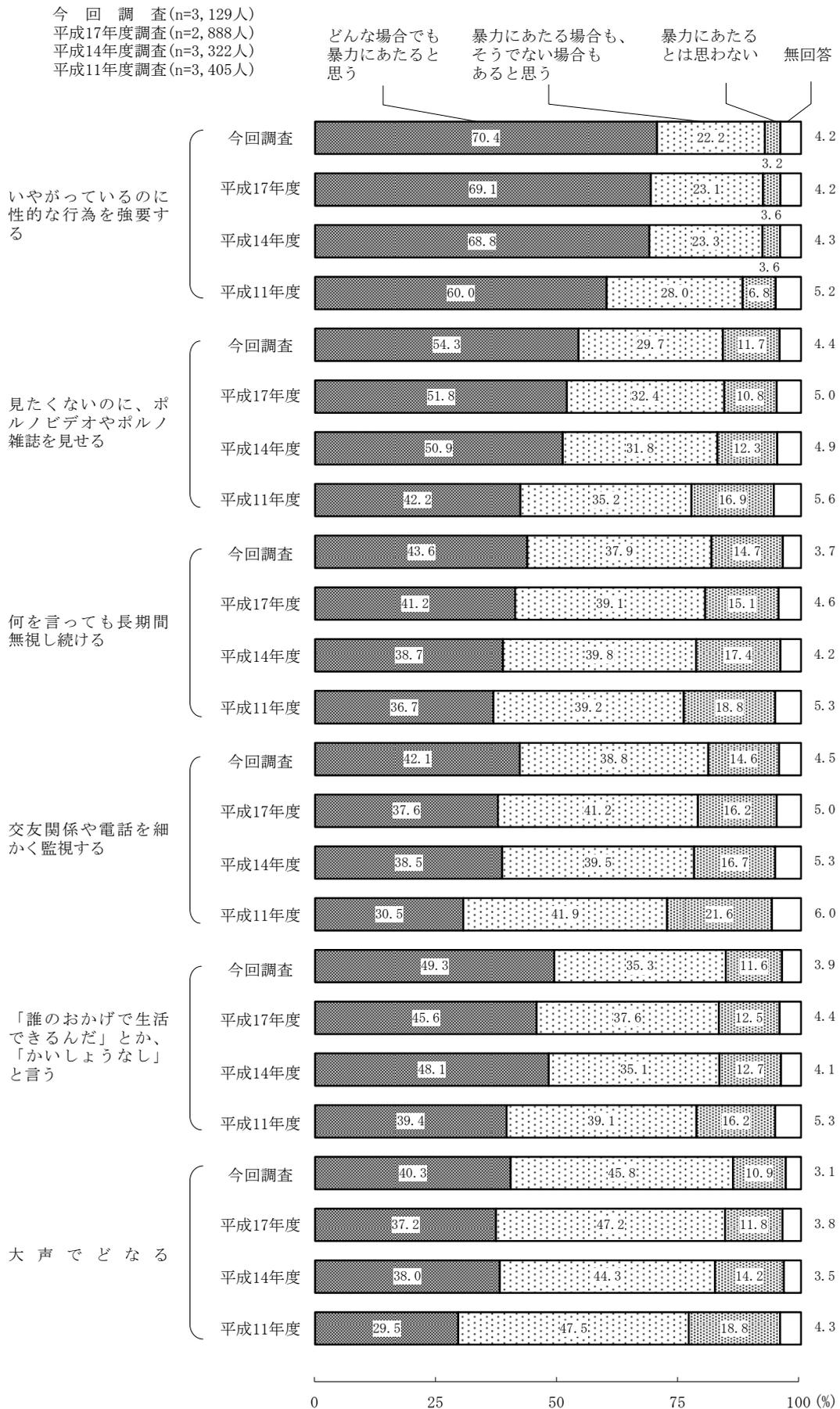
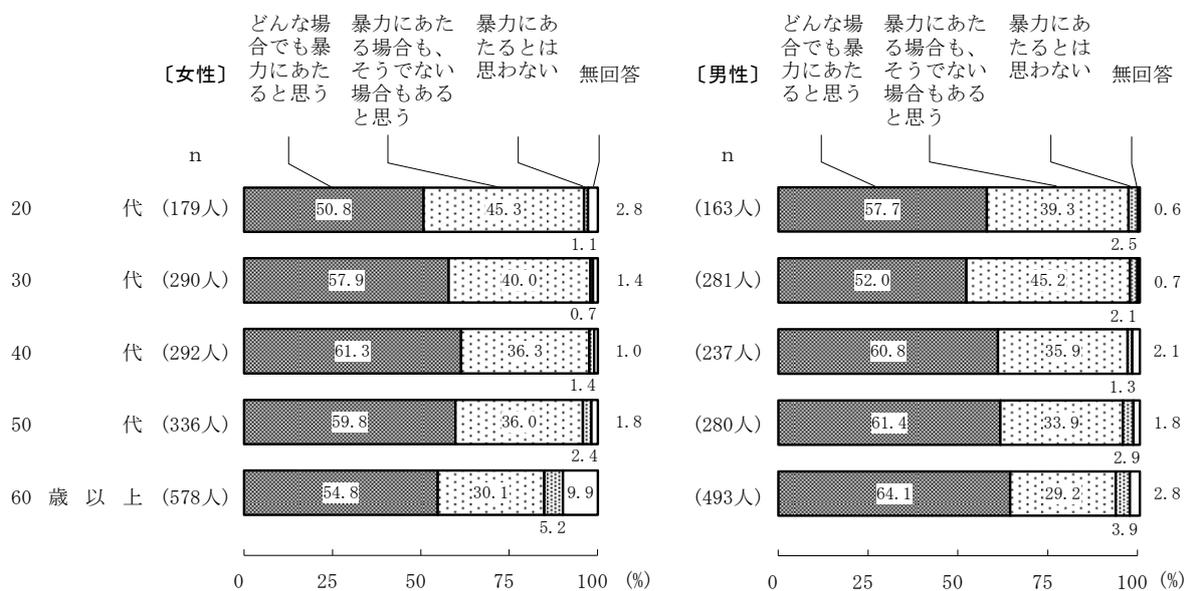


図 2-3・つづき



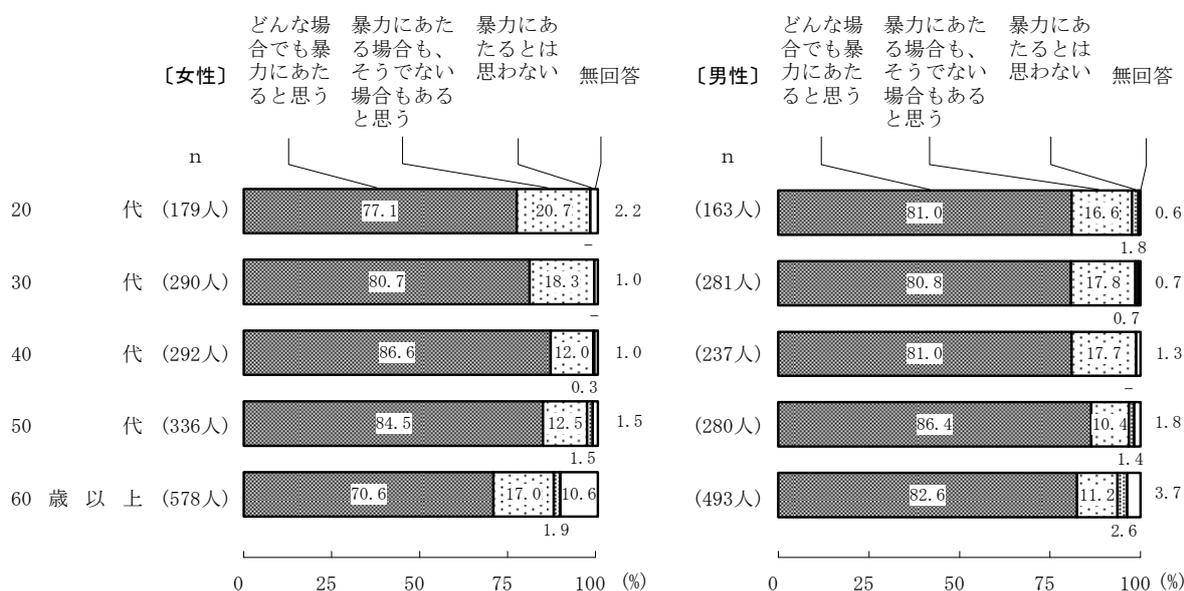
各項目について性・年齢別にみると、まず、“平手で打つ”ことについては（図2-4）、男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人が多いが、若年層ほど「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という人の割合が多い傾向となっている。

図2-4 夫婦間での行為における暴力としての認識 — “平手で打つ”（性・年齢別）



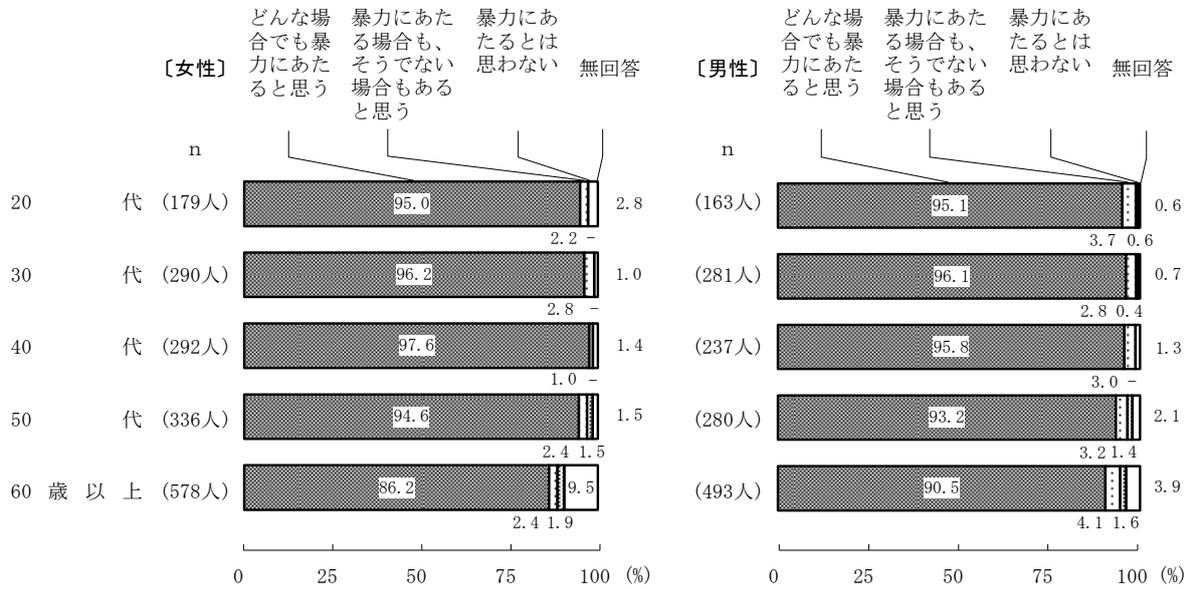
“足でける”ことについては（図2-5）、男女ともいずれの年齢層でも「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人が多数を占めるが、女性の20代では「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（20.7%）という人が2割と、他の性・年齢層よりやや多くなっている。

図2-5 夫婦間での行為における暴力としての認識 — “足でける”（性・年齢別）



“身体を傷つける可能性のある物でなくる” ことについては (図 2-6)、男女ともすべての年齢層で、ほとんどが「どんな場合でも暴力にあたると思う」と認識している。

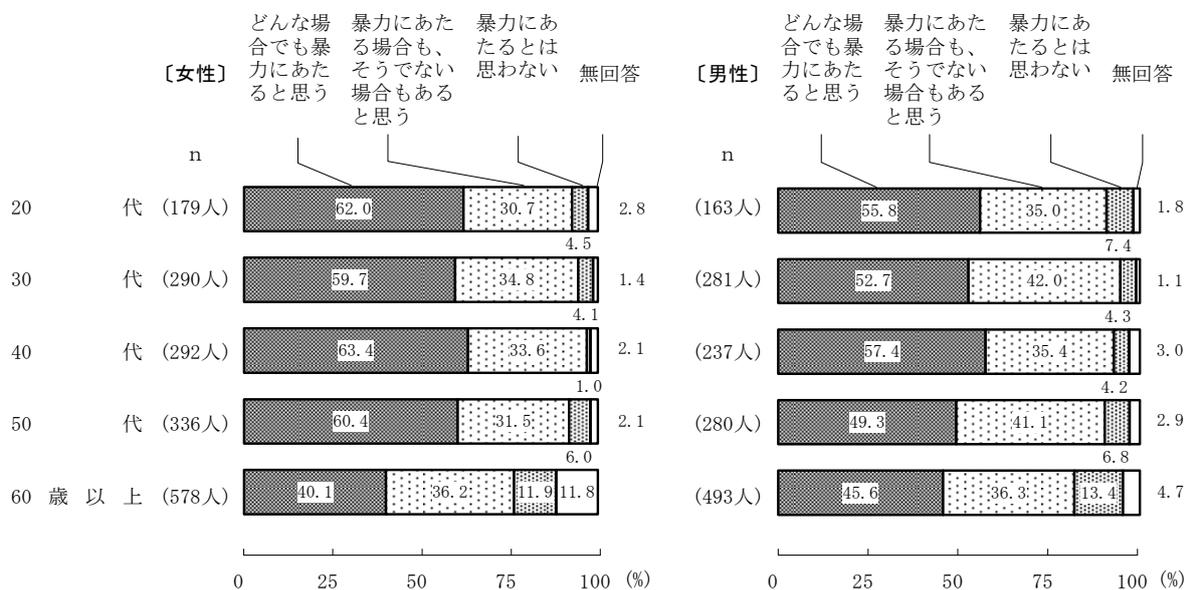
図 2-6 夫婦間での行為における暴力としての認識 — “身体を傷つける可能性のある物でなくる” (性・年齢別)



“なぐるふりをして、おどす” ことについては (図 2-7)、女性の 20代から 50代で「どんな場合でも暴力にあたると思う」(20代 62.0%、30代 59.7%、40代 63.4%、50代 60.4%) という人が 6割と多くなっているが、60歳以上では 40.1%と少なくなっている。

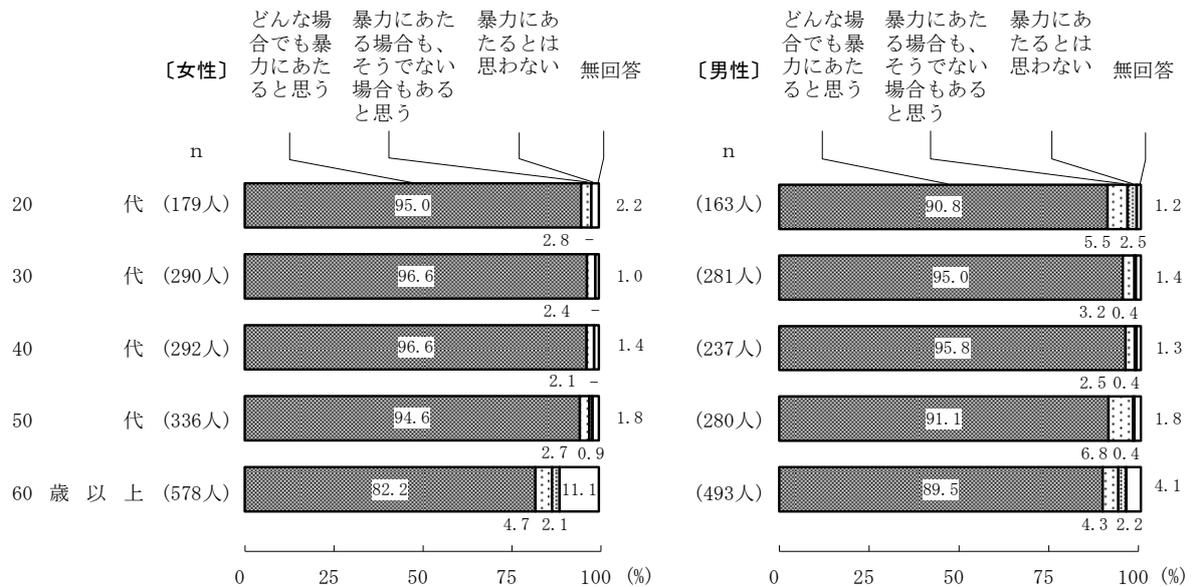
また、男女とも 60歳以上の年齢層では、1割以上の人が「暴力にあたるとは思わない」(女性 11.9%、男性 13.4%) と答えている。

図 2-7 夫婦間での行為における暴力としての認識 — “なぐるふりをして、おどす” (性・年齢別)



“刃物などを突きつけて、おどす” ことについては (図 2-8)、男女とも 50 代までの年齢層では「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人が 9 割以上と多くなっている。

図 2-8 夫婦間での行為における暴力としての認識 - “刃物などを突きつけて、おどす” (性・年齢別)

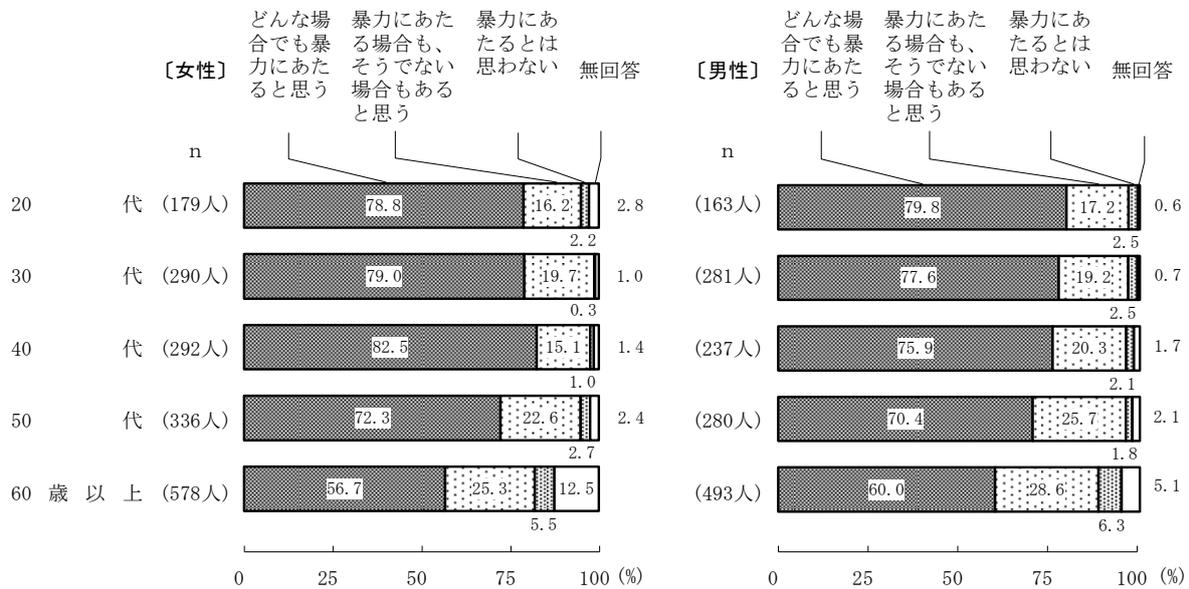


“いやがっているのに性的な行為を強要する” ことについては (図 2-9)、男女とも若年層ほど「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人が多くなる傾向があり、20代から40代までは、8割前後となっている。

これに対して、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という人は、男女とも高年齢層ほど多くなる傾向があり、女性の60歳以上 (25.3%) と男性の50代から60歳以上 (50代 25.7%、60歳以上 28.6%) では3割弱となっている。60歳以上の年齢層では、「暴力にあたるとは思わない」 (女性 5.5%、男性 6.3%) という人も男女とも他の性・年齢層より多く、暴力としての認識が低くなっている。

図 2-9 夫婦間での行為における暴力としての認識

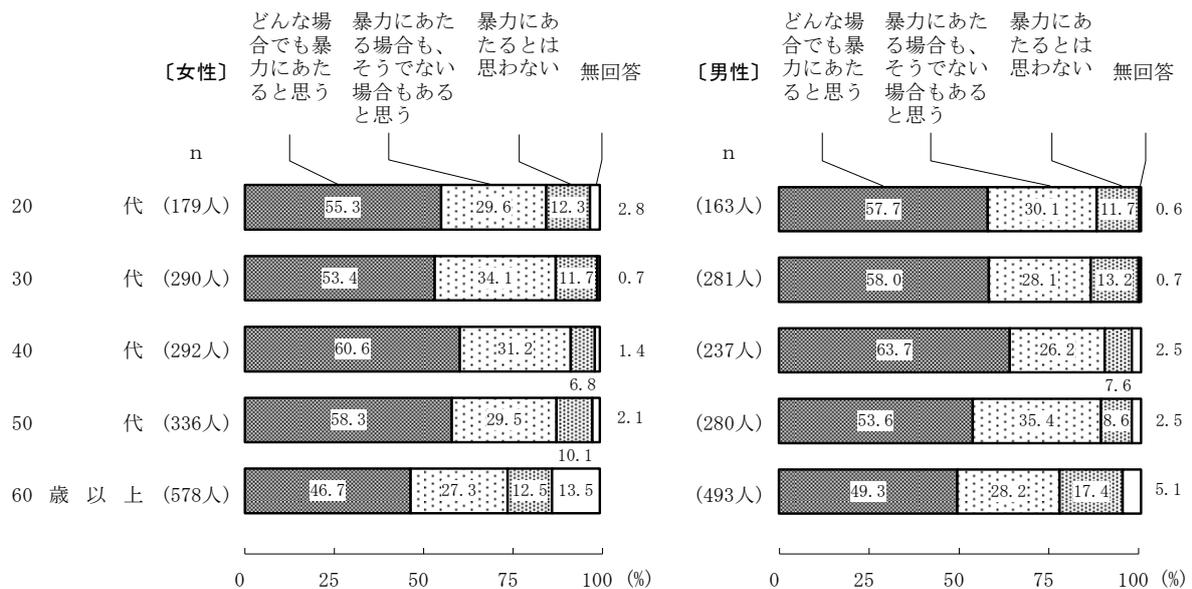
— “いやがっているのに性的な行為を強要する” (性・年齢別)



“見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる”ことを「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人は、女性の40代から50代（40代60.6%、50代58.3%）と男性の20代から40代（20代57.7%、30代58.0%、40代63.7%）で、それぞれ6割ほどとなっている（図2-10）。

図2-10 夫婦間での行為における暴力としての認識

－ “見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる”（性・年齢別）

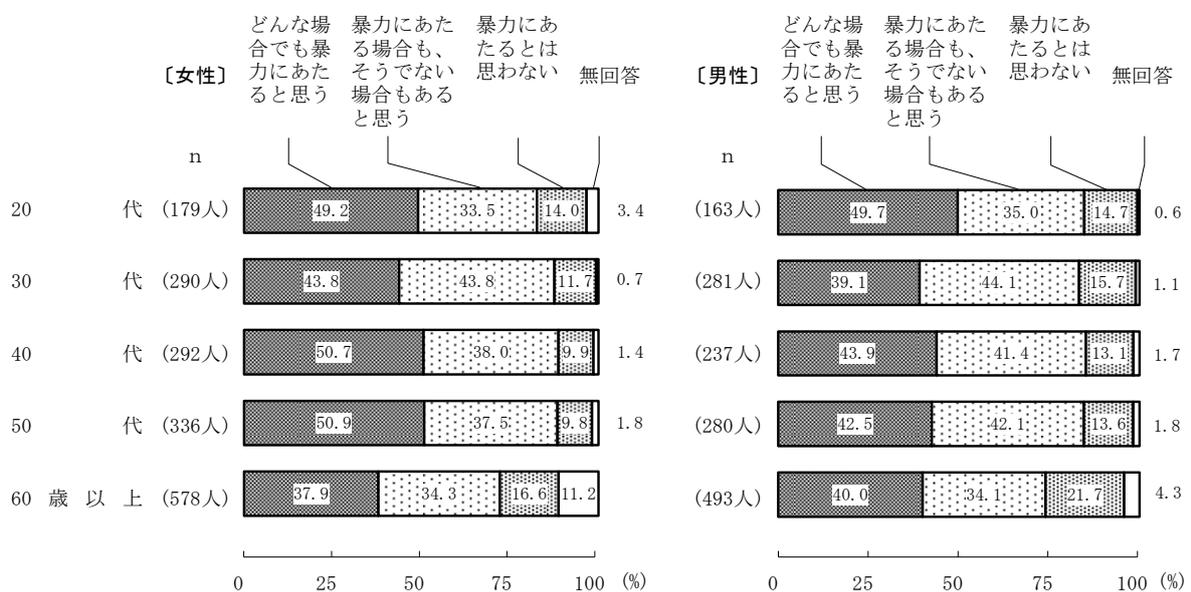


“何を言っても長期間無視し続ける”ことを「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人は、女性の20代（49.2%）と40代から50代（40代50.7%、50代50.9%）で約5割となっている（図2-11）。

一方、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と考える人は、女性の30代（43.8%）と男性の30代から50代（30代44.1%、40代41.4%、50代42.1%）では4割強となっている。また、男女とも60歳以上（女性16.6%、男性21.7%）の年齢層では「暴力にあたるとは思わない」と考える人が2割程度となっている。

図2-11 夫婦間での行為における暴力としての認識

－ “何を言っても長期間無視し続ける”（性・年齢別）

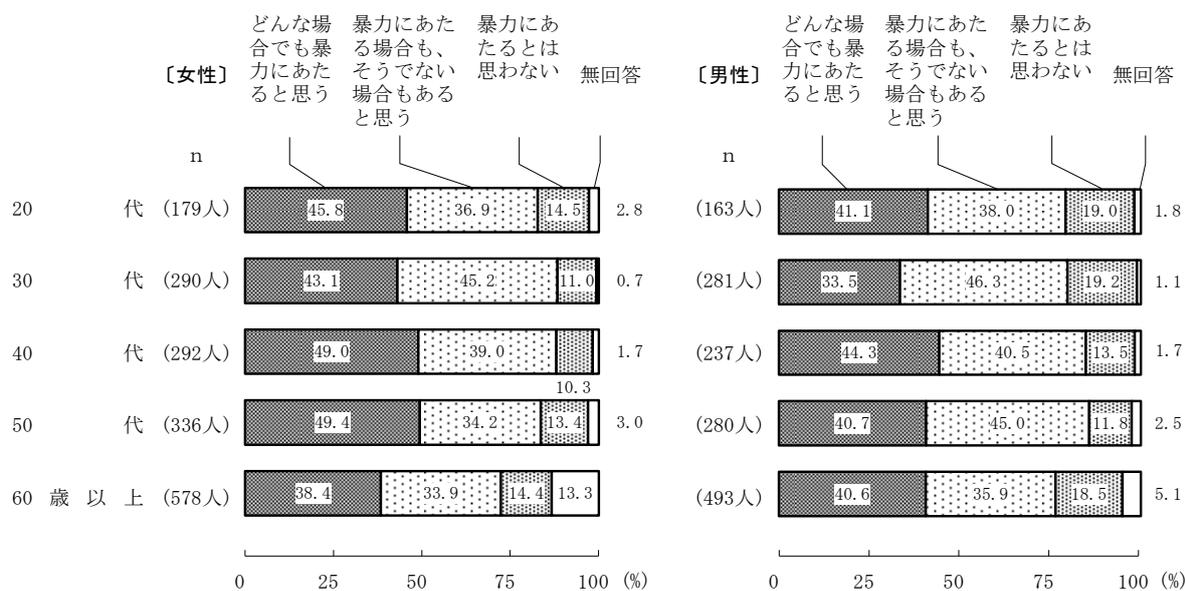


“交友関係や電話を細かく監視する”ことを「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人は、女性の40代から50代（40代49.0%、50代49.4%）で5割近くとなっている（図2-12）。

一方、男性の20代から30代（20代19.0%、30代19.2%）と60歳以上（18.5%）では「暴力にあたるとは思わない」という人が2割ほどとなっており、他の性・年齢層よりやや多くなっている。

図2-12 夫婦間での行為における暴力としての認識

— “交友関係や電話を細かく監視する”（性・年齢別）

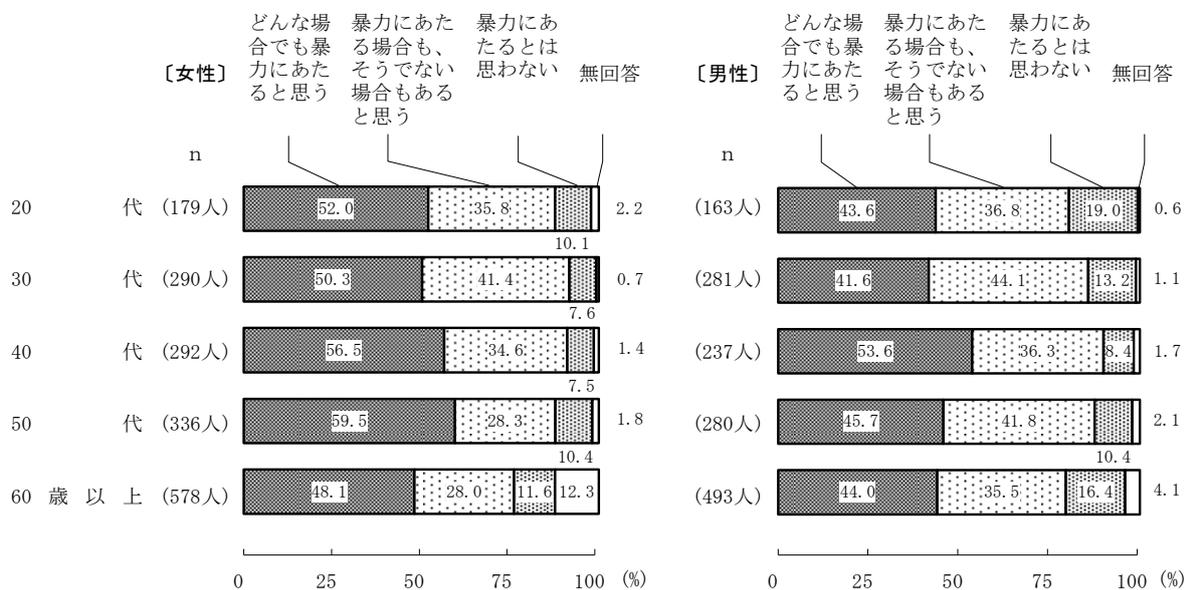


“「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う”ことを「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人は、女性の40代から50代（40代56.5%、50代59.5%）で6割ほどと、他の性・年齢層より多くなっている（図2-13）。

一方、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」と考える人は、女性の30代（41.4%）、男性の30代（44.1%）と50代（41.8%）で4割強となっている。また、「暴力にあたるとは思わない」と考える人は、男性の20代（19.0%）と60歳以上（16.4%）で2割ほどとなっており、他の性・年齢層よりやや多くなっている。

図2-13 夫婦間での行為における暴力としての認識

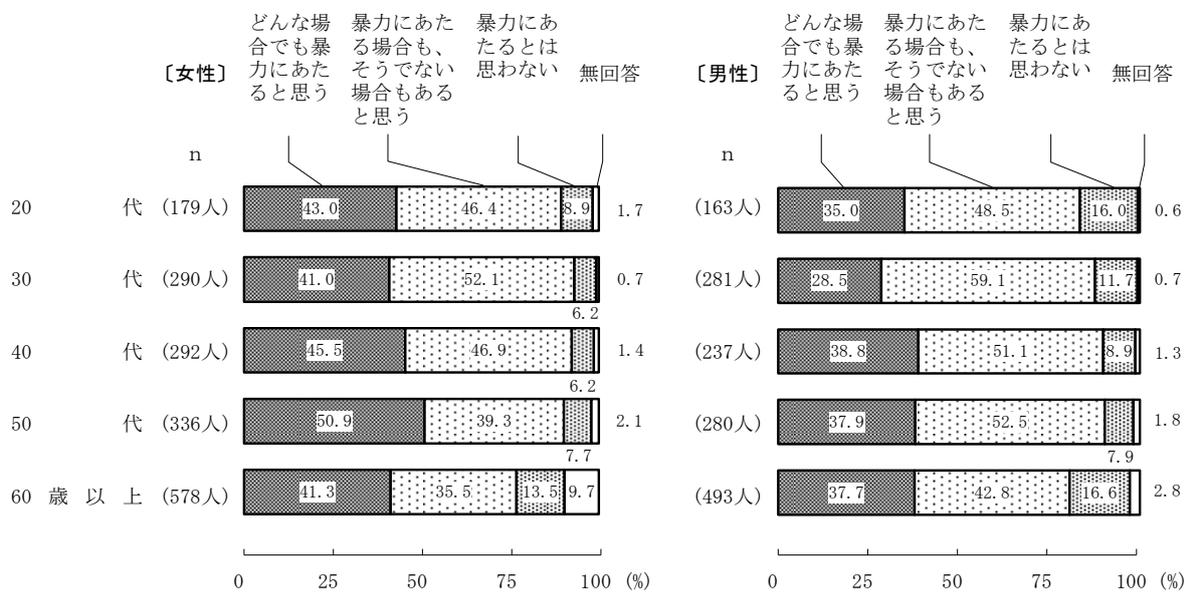
— “「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う”（性・年齢別）



“大声でどなる” ことについては (図 2-14)、女性の 50 代以上の性・年齢層では「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人が、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という人を上回っている。特に、女性の 50 代では 50.9% となっており、5 割の人が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考えている。

一方、男性では、いずれの年齢層でも「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という人が、「どんな場合でも暴力にあたると思う」という人より多くなっている。特に男性の 30 代では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(59.1%) という人が 6 割と他の性・年齢層より多くなっている。

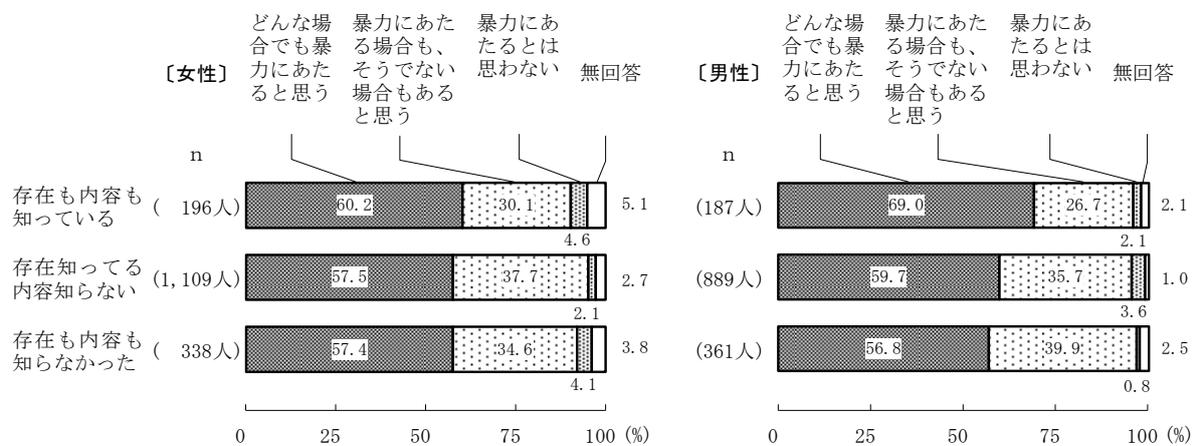
図 2-14 夫婦間での行為における暴力としての認識 — “大声でどなる” (性・年齢別)



さらに、それぞれの行為に対する認識を性・配偶者暴力防止法の認知度別にみると（図 2-15）、いずれの行為についても、法律の認知度が高い人ほど「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が多くなっているが、“身体を傷つける可能性のある物でなく”“刃物などを突きつけて、おどす”“足でける”といった3つの行為については、法律の存在も知らない人でもほぼ8割以上が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考えており、暴力としての認識が強く、法律の認知度による差は小さい。

図 2-15 夫婦間での行為における暴力としての認識（性・配偶者暴力防止法の認知度別）

A 平手で打つ



B 足でける

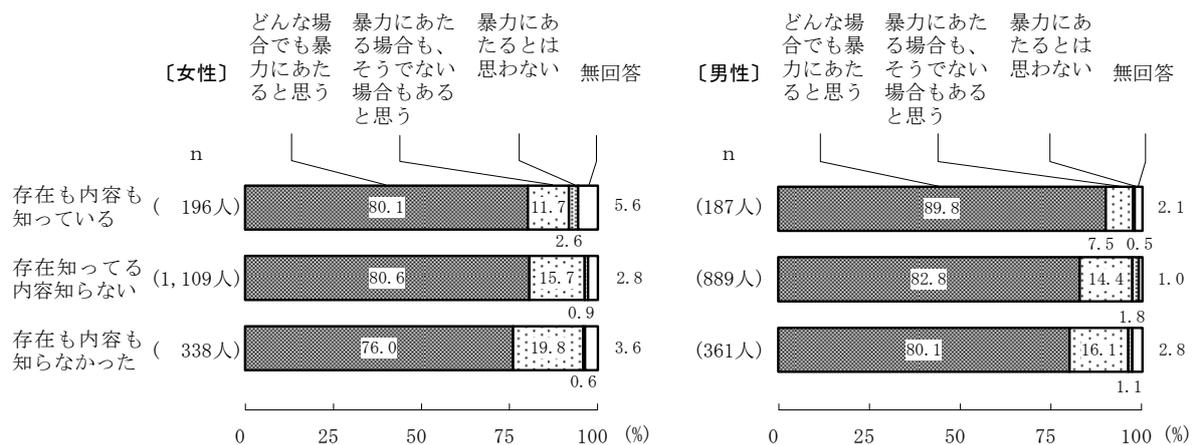
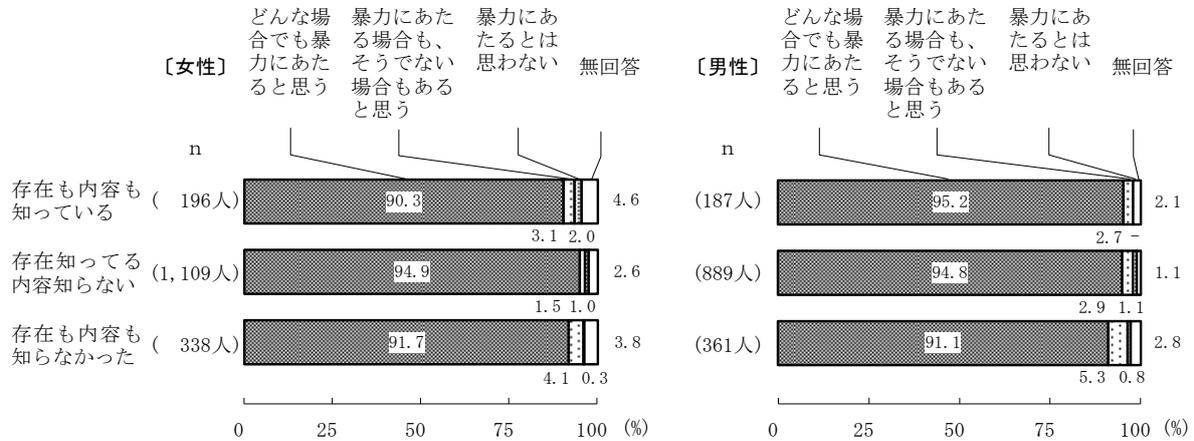
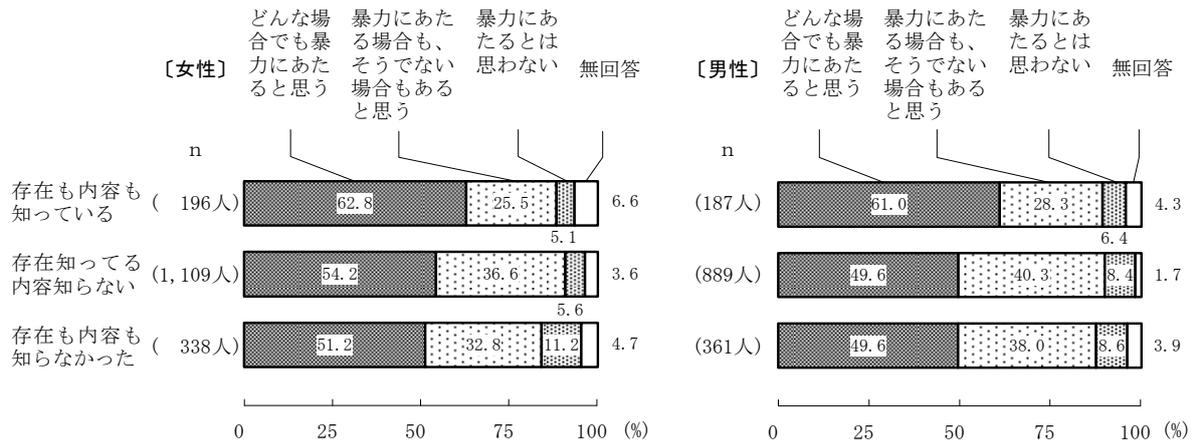


図 2-15・つづき

C 身体を傷つける可能性のある物でなく



D なくるふりをして、おどす



E 刃物などを突きつけて、おどす

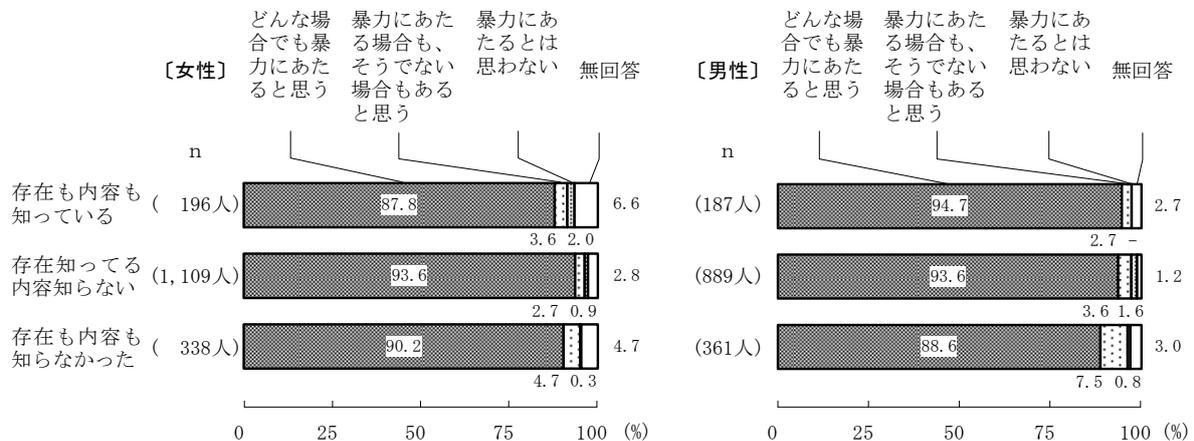
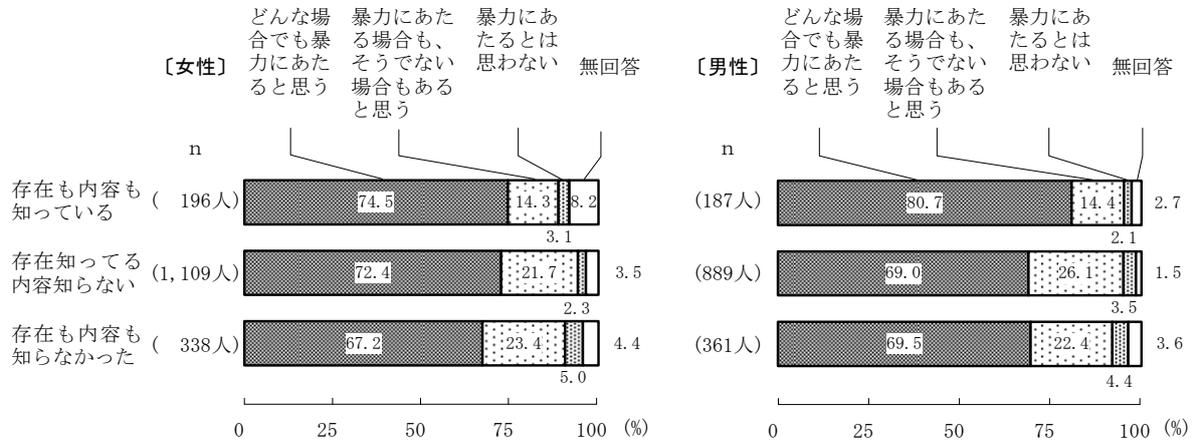
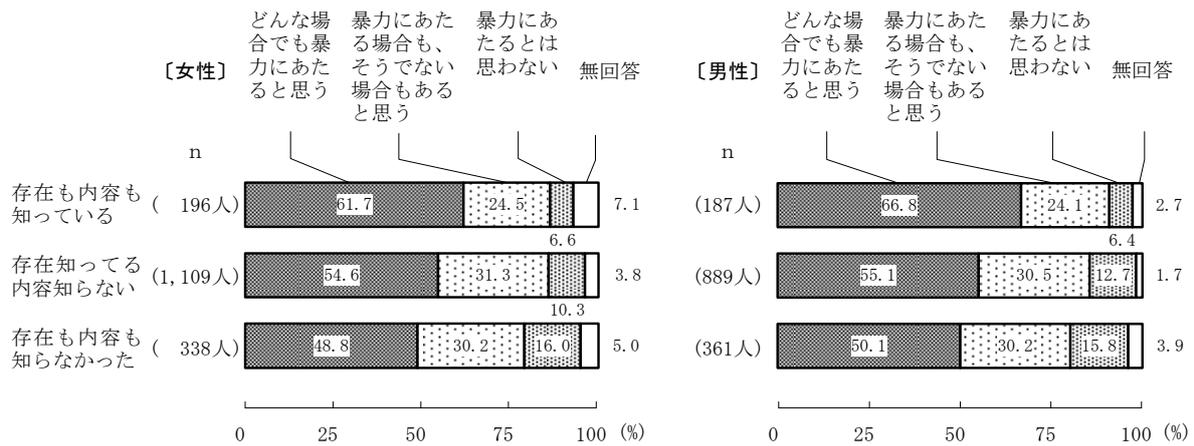


図 2-15・つづき

F いやがっているのに性的な行為を強要する



G 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる



H 何を言っても長期間無視し続ける

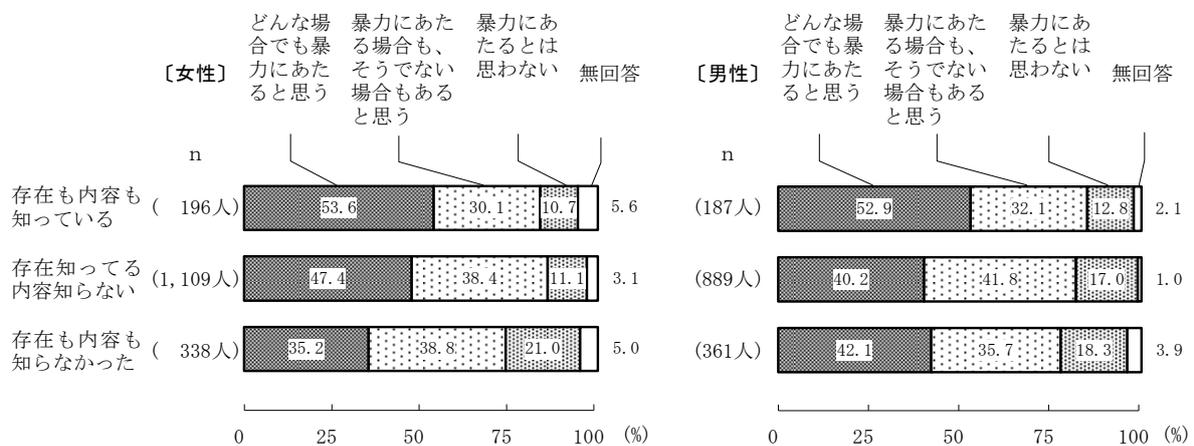
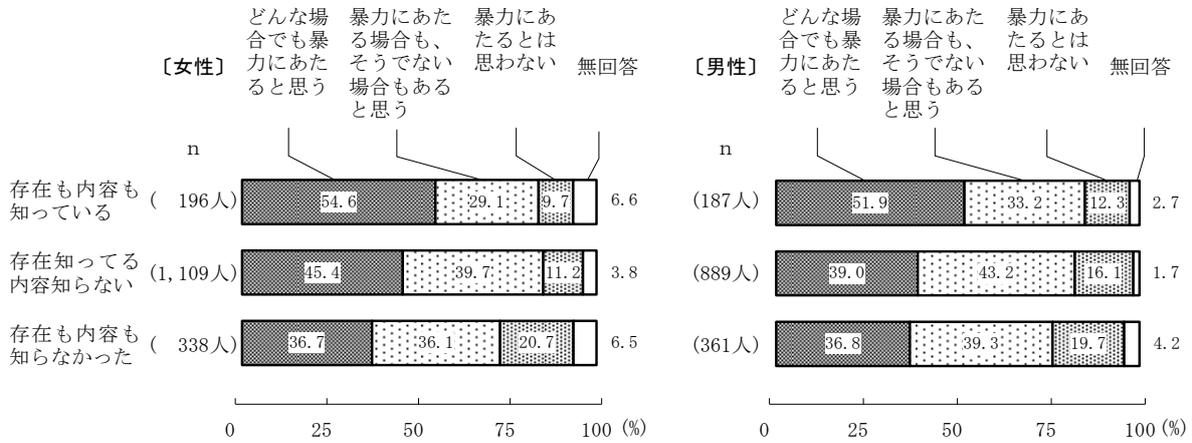
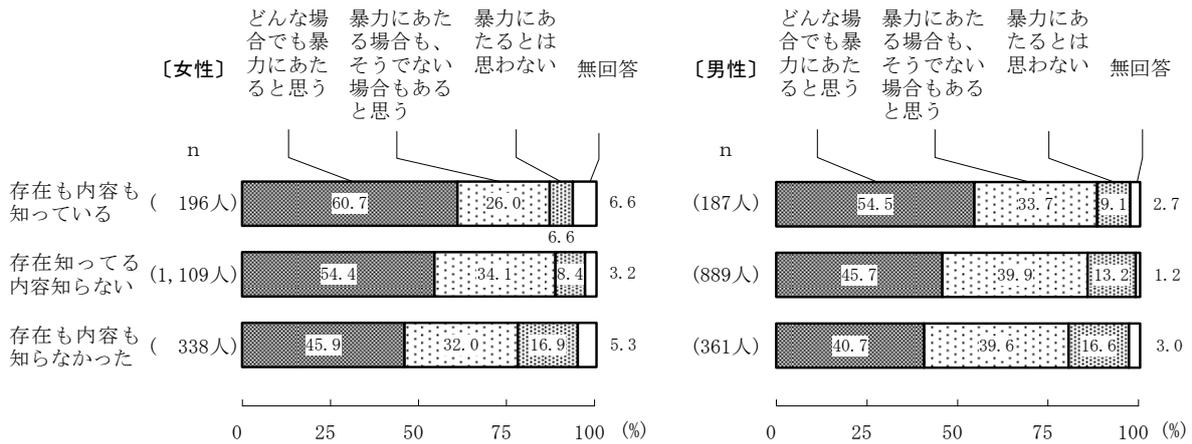


図 2-15・つづき

I 交友関係や電話を細かく監視する



J 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う



K 大声でどなる

